Yamagata West Rotary Club 2025-2026
国際ロータリー第2800地区　山形西ロータリークラブ

Monthly REPORT

3
March 2026

よいことの
ために
手を取りあおう

第3078回例会
「通常例会」

第3079回例会
「山響音楽鑑賞例会」

第3080回例会
「通常例会」

第3081回例会
「映画鑑賞例会」

ロータリー月間テーマ
水と衛生月間

2025-2026年度　：会長_五十嵐信 / 幹事_武田秀和
会報委員会　　：委員長_佐藤淳 / 副委員長_芦野茂 / 髙橋順弘 / 小野裕史 / 長澤純

3月を振り返って

五十嵐信会長

3月は4回の例会を開催いたしました。ロータリー財団委員会によるグローバル補助金活用研究の発表、山形森林管理署長による「樹氷再生プロジェクト」に関する卓話、山形交響楽団の鑑賞例会、そして映画鑑賞例会です。しっかり学ぶ例会が2回、そして「大人の遠足」が2回。実に当クラブらしい、幅のある1か月であったように思います。
グローバル補助金は、単なる助成制度ではありません。国際ロータリーが推進したい理念と方向性に対し、大きな資金を投じる仕組みです。だからこそ、私たちの「樹氷再生プロジェクト」も、単なる環境保全活動に留まらず、ロータリーらしい理念と構造を持った事業として組み立てていく必要があります。森林、水、地域社会、そして未来世代をどう結びつけるのか、一つひとつ丁寧に積み上げていきたいと思います。
また、職業奉仕委員会に「大人の遠足」を担当していただいているのにも、大切な理由があります。ロータリーの職業奉仕は、単に「自分の職業技術を社会に役立てる」という考え方に留まりません。
近年は、仕事を通じて培った感性や経験、さらには地域活動の中で磨かれた力もまた、社会への奉仕につながるという方向へ広がりを見せています。
山形交響楽団も、映画文化も、山形の大切な地域資産です。それらを知り、楽しみ、語り合い、次の世代へ伝えていくこともまた、地域に根差すロータリークラブの大切な役割なのだと思います。学びと親睦、そして地域への奉仕の精神を実感できた、大変充実した1か月でございました。会員の皆さまのご協力に、心より感謝申し上げます。

・第3078回例会 会長挨拶
・第3079回例会 会長挨拶
・第3080回例会 会長挨拶
・第3081回例会 会長挨拶

幹事報告

武田秀和幹事

今月のロータリーレートは156円

転勤・退会のお知らせ
- 渡辺亮人会員：転勤のため今月末で退会予定。後任として金子さんが入会予定。

- 小山陽会員：転勤のため本例会が最終参加。後任として小野寺さんが入会

寄付金対応について
次回例会以降、各委員会から代表者が受付に立ち寄付対応を行う予定

IMお礼状について
山辺ロータリークラブよりIMのお礼状が届いたため紹介

委員会報告

米山委員会　大場委員長

今期は1回あたり1万円以上のご寄付をお願いしている。

寄付方法は例会時に事務局へ手渡し、または振り込みにて対応、今期中に委員会より会員個別へお願いの連絡をする場合がある。

ロータリー財団委員会　担当卓話

菅原委員長・遠藤副委員長

地元のシンボルであるアオモリトドマツ（オオシラビソ）の再生プロジェクトへのロータリー財団グローバル補助金の活用について、現時点での検討結果が報告された。プロジェクトの目的は枯損が進むオオシラビソを再生し、地域の観光・環境資源として次世代へ残すことであり、現在は基盤構築と申請準備のフェーズにある。

グローバル補助金の申請にはいくつかの必須条件がある。まず地区からの参加資格認定の取得、補助金管理セミナーへの出席、クラブの覚え書き（MOU）への署名が必要で、MOUは年度ごとに更新が必要なため現会長だけでなく次年度会長（会長エレクト）にも確実に手続きをお願いすることになる。これが漏れると申請画面を開くことすらできないため注意が必要とのことであった。

次に審査における最重要ポイントとして地域社会調査の実施が挙げられた。「木が枯れているから植えるべき」という考えだけでは財団の審査は通らず、地域住民が本当に再生を望んでいるかを客観的なデータとして示す必要がある。観光協会・自治体・地域住民へのヒアリングを実施し、様々なグループの声を集めて地域の強みと課題を洗い出した上で申請書に反映させなければならない。なお調査にかかる費用はグローバル補助金から支出できない点にも注意が必要である。

体制面ではグローバル補助金の申請に国際的なパートナーシップが必要なため、海外クラブとの提携が求められる。またクラブ内にプロジェクト委員会（正会員3名以上）を設置する必要があるが、苗木販売など金銭的利益を得る可能性がある会員は委員になれないため透明性ある人選が求められる。予算面ではプロジェクト総予算3万米ドル（約450万円）以上が必要で、各品目について3社程度の見積もりを取り透明性を確保することが求められる。地区財団活動資金（DDF）の活用についても地区と相談が必要となる。さらに審査の大きな山場として持続可能性の確保が挙げられ、5年後・10年後の具体的な維持管理計画や地域住民向け講習会など学びの機会の提供が求められる。あわせてロータリー財団の概要と寄付についての説明があった。財団の重点分野7項目のうち今回のプロジェクトは「環境の保護」に該当する。

また、ポリオ根絶活動についてはポリオプラスソサイティへの参加を会員の60%を目標に呼びかけた。寄付は小額でも可能で事務局への手渡しのほかマイロータリーのウェブサイトからカード決済でも対応しており、企業寄付は振り込みにて受け付け確定申告時の寄付控除も適用可能とのことであった。「お金のある人がするのではなく心のある人がする」という言葉を引用しながら、寄付を未来への投資として捉え会員全員の協力を呼びかけた。

社会奉仕委員会　担当卓話

樹氷再生プロジェクト「オオシラビソ再び」　添谷所長（林野庁 東北山形森林管理署）

林野庁 東北山形森林管理署の添谷所長よりオオシラビソ再生事業の現状と今後の見通しについて報告いただいた。

蔵王のオオシラビソは昭和初頭から全国に知られる観光資源となっている。昭和38年には栗駒国定公園に指定され、再生活動エリアは特別保護地区として「自然景観の保護に万全を期する」エリアと位置づけられている。明治44年の記録にも「材質がよくなく搬出も不便」としてあえて手をつけずに残してきた経緯があり、そのことが今日の樹氷景観につながっているとも言えるとのことであった。
枯損の主な原因は2点ある。一つはカンヒツズリヒメハマキという蛾の幼虫が大発生し葉を食い尽くしたことで樹勢が大幅に低下したこと、もう一つは弱ったオオシラビソの下に泥松の低木が侵入し枯損を拡大させたことである。現在は天敵であるタマゴコバチの働きによりヒメハマキの大発生が抑制され被害は収束している。「今はこういった食害がほとんど見られなくなった」としながらも、増えてきた時にすぐ気づけるよう毎年欠かさずモニタリングを続けているとのことであった。

再生への取り組みとしては天然更新と人工植栽の両面から進めている。平成27年から育苗試験を開始し、植栽本数は約600本で生存率は約8割と良好な成績を収めている。育苗サイクルは約6年で移植可能な大きさである約20cmに成長する。植栽時期の比較試験では夏が最も生存率・成長率ともに良好という結果が出ており、「できれば夏に植えた方がいい」との見解が示された。種取りは釣竿状の道具を使い毎年実施しているが種がならない年もあり、昨年は久しぶりに採取できたとのことであった。

現地ではササが植栽の大きな障害となっているが、「ササは生態系の要素として非常に重要な位置を占めている」とし、薄い土壌をしっかり押さえるササの機能を損なわない形での植栽方法の検討が今後の重要なテーマであると述べた。
また苗木の安定供給については「育苗が続けられるかどうかに尽きる」とし、会員による育苗活動の継続が長期的な再生活動にとって非常に重要であると強調した。
令和元年春に植栽した苗木が現在約120cmに成長していることを紹介し、「手振りに住んでいるなと実感できる瞬間がある」と語った。完全な再生には数十年単位の長い時間が必要であるが、着実に育つ苗木を励みに「皆様と一緒に再生に向けて取り組んでいければ」と締めくくった。

山形交響楽団音楽鑑賞例会

令和8年3月8日、午後2時20分から山形テルサホールにて、「山形交響楽団」の定期演奏会を鑑賞するための特別な例会を盛大に開催いたしました。会場には約40名の会員の方々が集まり、会場全体が期待に溢れる雰囲気に包まれました。
公演に先立って行われた例会では、山形交響楽団の西濱専務理事より、山響がこの11年間で遂げた大きな変化と歩みについてお話しいただきました。

西濱氏は山形に移住して11年。着任当時、山響は累積債務を抱え、入場率も5割に満たない厳しい経営状況にありました。県庁からは「このままでは解散もあり得る」と告げられたほどの危機でした。
しかし、園部氏との出会いをはじめ、山形銀行・山形新聞放送社など多くの支援者との信頼関係を築きながら、再建への道を歩み始めました。
西濱氏は、関西フィルでの再生経験や一般企業での経営経験を活かし、「山響を世界の交差点にする」という明確なビジョンを掲げて改革を推進。世界的指揮者・演奏家とのパートナーシップを拡大し、国際的な評価も高まっています。
文化庁の「オーケストラ・キャラバン」では、山響が全国で最も優れた実績を上げたモデル事業として選出されました。また、コロナ禍では世界配信に挑戦し、ドイツを中心に約1万人が視聴。寄付も約1億円集まり、未来への投資につながりました。
現在、山響は

- 借金ゼロ（短期含む）
- 入場率 190%超
- 券売率 104% という国内屈指の人気オーケストラへと成長。 特筆すべきは、危機を支えた事務局メンバーが誰一人欠けることなく、この成長を実現したことだと語られました。

最後に西濱氏は、山形の文化施設の稼働率向上や経済波及効果（約17億円）にも触れ、山響が地域の誇りとして歩み続ける決意を述べられました。

演奏された曲目は
・エルガー：弦楽セレナードホ短調　作品20
・チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲　ニ長調　作品35
・ベートーヴェン：交響曲第四番　変ロ長調　作品69
世界を舞台に活躍する巨匠　大植英次と22年ヴィエニャフスキ国際コンクール優勝の俊英　前田妃奈が山響に初登場しました。
山形が誇る山形交響楽団の魅力的な演奏がホールに響き渡り、会員はその美しい音楽に心を奪われました。素晴らしい演奏に、参加者全員が感動し、充実したひとときを過ごすことができました。

映画鑑賞鑑賞例会

令和8年3月30日、山形フォーラムにて映画鑑賞例会が開催されました。鑑賞した映画のタイトルは「ストリート・キングダム　自分の音を鳴らせ」です。この作品の主役は山形県山辺町出身の峯田和伸さんです。
物語は、実在の写真家・地引雄一氏をモデルにした主人公・ユーイチの回想という形で展開されます。メインストリームの音楽業界や商業主義とは一線を画しながら、若者たちのエネルギーは連鎖していきます。ユーイチは、自分たちの誇りと音楽を誰にも奪わせないという強い意志を胸に、仲間たちと併走しながら日本のロック史に革命を起こすムーヴメントを支えていきます。この作品は、当時の空気感や熱量をリアルに映し出し、自分たちの思うように「好き」を貫き通して生きることの尊さと、自主制作精神の素晴らしさを力強く伝える物語です。

退会会員紹介

小山陽会員

会社名　カメイ株式会社
役職　山形支店長

2020年4月の入会からコロナ禍とともに始まり、気づけば丸6年お世話になった。
実質的なお付き合いは約4年ほどであったが、普通のサラリーマンでは体験できないようなことをこの4年間で数多く経験させていただき、大変ありがたく思っている。4月からは関連会社へ出向となる。一人ひとりにしっかりご挨拶をしてから去りたいと思っていたが言葉が足りないところもある。本当に6年間ありがとうございました。

※なお、渡辺亮人会員についても転勤による今月末での退会が幹事報告にてお知らせがありましたが、所用により本例会を欠席されたため挨拶はありませんでした。

入会会員紹介

今後入会される後任2名につきましては、次月以降のマンスリーレポートにてあらためてご紹介いたします。

クラブ会報アーカイブは
こちらのQRコードからご覧ください

山形西ロータリークラブ事務局

山形市十日町１丁目１－２６　歌懸稲荷神社２F

info-ywest@ywrc.jp

Rotary